

入選

親切はうれしい

千葉県 常盤平第一小学校
六年 大谷 桜子

『親切』というテーマで、作文を書きましょう。」

と言われたとき、パツとうかんだのは、クラスメイトの顔でした。それは、4年生のときの話です。休みの日、私は家の家具に右足をぶつけました。今までにない痛みに驚き、初めてお母さんに、

「病院に連れて行って。」

とお願いしました。診断の結果、右足の中指を骨折していました。病院で、松葉づえの使い方を教わりました。思った以上にむずかしく、うまくあつかうことができなかつたので、明日からの学校生活、どうしようと思ったことを覚えています。

次の日、お母さんといっしょに登校しました。松葉づえで進むのはつかれるので、休み休み行きました。学校のげた箱のところで、松葉づえに気づいたクラスメイトや先ぱいたちに、

「大丈夫?」「骨折したの?」

と、次々に声をかけられました。

私は、心配してもらってうれしい気持ちもありましたが、やっぱりはずかしかったです。私の教室は3階なので階段をのぼらなければなりません。一段ずつのぼっていたら大変なので、ケンケンで進みました。怖くて、ものすごくつかれるので、とちゅうで休けいを入れました。

そのとき、骨折の話聞いたクラスメイトが、

「大丈夫?荷物持ってあげるよ。」

と、お母さんから荷物を受けとり、また教室へもどって行きました。その行動があまりにもすばやかだったので、その場でお礼が言えませんでした。

授業中は問題なく過ごすことができましたが、トイレは一人では行けませんでした。一番席の近い友だちが、毎回いやな顔せず、いっしょに行ってくれました。

この二つのできごとは、一年以上前のことなのに、今でも思い出します。それは自分がけがをして、思うように行動できず落ちこんでいるときに、親切にされて、本当にうれしかったからだと思います。

「私はだれかに親切にしたことがあるかな。」とお母さんに聞いてみたら、お母さんは、

「親切なんて、してあげたほうは、すぐに忘れてしまうものでしょ。」

と言ったあと、前に私が運動会で応えん団をやったときに、下級生がハチマキを巻けなかつたので、結んであげたときのことを思い出させてくれました。結んであげた子の一人が、お母さんの知り合いの子だったので、その日のうちにメールが来たそうです。私はこの話をお母さんにしていなかつたので、驚きました。本当に忘れていました。

親切にされた方はうれしいので、ずっと覚えているものです。しかしする時は、「親切にするぞ」などと考えず行動をします。

いつかクラスメイトが私にしてくれたように、「笑顔ですばやく相手のために。常にそういう人になろう」と思います。